

エコイノベーション研究の到達点と課題

要旨

環境負荷を低減する際には、各主体がエコイノベーションの開発・導入を考慮すること必要不可欠である。その発生を説明する研究に関し、Jaffe, Newell and Stavins(2003)は既存の研究を2つのアプローチ、誘発型イノベーションアプローチ(Induced Innovation Approach)と進化理論的アプローチ(Evolutionary Approach)に大別して概観する。前者は価格や費用の変化、また環境政策の実施により誘発されたイノベーションを説明する、また後者は、イノベーションの発生・進展とそれを取り巻く周辺状況に焦点を当て、イノベーションの促進要因を分析するアプローチである。

本研究はJaffe, Newell and Stavins(2003)で参照された先行研究を各アプローチ別により詳細に参照した上で、先行研究がイノベーションの生成を解明する範囲・意義と現時点での限界を整理し、今後のエコイノベーション研究の方向性に関し考察を行った。その結果、以下の2つの知見が得られた。第1に、これまでのエコイノベーション研究は、従来2つの潮流に分類されているが、個別事例に関する先行研究は、本質的にこの2潮流に基づく視点、つまり誘発的視点と進化的視点を併用している。第2に、この2視点に基づき今後のイノベーション研究を展開するに当たり、進化理論的アプローチの視点はリードマーケットアプローチによってイノベーション事例をより詳細に分析することで精緻化することが可能になる。

キーワード：エコイノベーション, Induced Innovation Approach, Evolutionary Approach, ポーター仮説, Lead Markets